

キッズジョブまつやま2016での(子ども職業体験イベント) お花屋さん体験

作成者：NPO花育・花活プロジェクトえひめ 代表 渡部 千恵美

■ 実施主体

名 称：松山市小中学校PTA連合会
NPO花育・花活プロジェクトえひめ
担当窓口：渡部 千恵美
所 在 地：愛媛県松山市
S N S：花育・花活プロジェクトえひめ
<https://www.facebook.com/>



■ 取組地域：愛媛県松山市内

■ 概 要

「キッズジョブまつやま2016」は、松山市内の小中学生に仕事の意義・仕組み・やり方を体験してもらうことにより、働くことの楽しさや厳しさを学び、地元企業への関心と理解を深めることを目的としている。子ども職業体験イベントとして、さまざまな仕事を体験することができ、子どもたちが将来どのような仕事をしたいか、また、どのような仕事があるのかを発見できる。この中の職業体験の一つ、「お花屋さん」ブースを担当し指導した。

このイベント全体の参加者は、1000人を超える。

■ 取組開始時期・経緯

2014年から始まった子ども職業体験イベント「キッズジョブまつやま2016」では、松山市内の企業や団体の協力により約60種類の仕事の紹介と、職業体験の指導を行っている。

初年度から「お花屋さん」ブースを担当し、今年で3回目となる。

今年には249名の子供たちの参加があった。

■ 目的（目標）

職業体験を通して仕事への興味や関心を持つことで、将来の目標をもつきっかけになるとともに、家族で将来を語り合う絶好の機会になる。

「お花屋さん」の仕事を体験することで、花や植物がどのように生産者から市場、小売店、消費者まで流通するのかを学んでもらう。また、フラワーアレンジメント体験では、花や植物に触れる機会を通して、花に興味を持ってもらう。

「キッズジョブまつやま」の仕組み

1. 60種類ある職業の中から体験したい職業を3つ選んで、事前に申し込みをする。
(参加校が取りまとめて応募)
2. 当日は、事前に受け取っている「名札」を受付に提示する。記念品とイベント専用の通貨100きゃん(50きゃん×2枚)を受け取る。
3. お仕事体験
3つの希望した仕事のスケジュールを確認して会場に行く。体験しない職業も見学ができる。
4. お給料をもらう
お仕事を体験すると専用の通貨でお給料が支払われる。
(1時間100きゃん)
5. お買い物をする
もらったお給料(専用通貨きゃん)を使って会場内でお買い物ができる。



当日のタイムスケジュール

時間	体験授業	1班(小学1年～4年生)	2班(小学5年～6年生)
9:00～9:25		開会式	
		移動・準備	
9:50～10:35	1コマ目	1時間目 体験授業	開会式
		移動・準備	移動・準備
10:50～11:35	2コマ目	2時間目 体験授業	1時間目 体験授業
			移動・準備
11:50～12:35	3コマ目	昼休み	2時間目 体験授業
12:50～13:35	4コマ目	3時間目 体験授業	昼休み
		移動・準備	
13:50～15:35	5コマ目	4時間目 体験授業	3時間目 体験授業
		移動・準備	移動・準備
14:50～15:35	6コマ目	閉会式	4時間目 体験授業
			移動・準備
16:05～16:20			閉会式

【取り組み内容】

- 対象者・人数：松山市内小中学生
お花屋さん体験参加者 249名
- 教科：（職業体験）生活科、総合的な学習など
- 所要時間：1時限（45分）
- 対象場所：地域のコミュニティセンター、小学校など
- 指導者：1クラス講師1名、アシスタント3名



お花さんの受付

<お花屋さん体験>

- 資材 ・器
 - ・吸水性スポンジ
 - ・リボン
- 花材 ・カーネーション
 - ・ガーベラ
 - ・ケイトウ
 - ・ユウカリ



お花さんの体験教室会場

■ 活動内容（指導内容）

● 「花の流通」 についての説明

花がどこから運ばれてくるのか、紙芝居を使って説明する。日本には、全国にさまざまな産地がありたくさんのお花が作られている。



写真を使って説明

紙芝居を使って説明を行った。

- ・市場には、全国の花の生産者が大切に育てた花がトラックで運ばれてくる。
- 季節によってさまざまな花が市場に集まる。



※説明に使用した「紙芝居」の写真
市場には、色々な種類の花が運ばれてくる

- ・集まった花は、「セリ」にかけられる。
「セリ」とは、花の値段を決める方法のことをいう。花を持った人たちは、市場のセリを担当する人で、その花を欲しい人がたくさんいると値段は上がり、欲しい人が少ないと値段が下がる。

説明に使用した「紙芝居」



たくさんのお花がセリ落とされる

- ・お花屋さんは、セリで買った花を車に乗せて店に持ち帰る。買った花が潰れたり、傷がついたりしないように大切に運ぶ。



お花屋さんのトラック

- ・店に持ち帰った花は、トゲを取ったりいらぬ葉を取り除き、水揚げ（水の中で茎を2~3cm程度斜めに切り水を吸わせること）などの下処理をしてから店頭で並べる。お花屋さんでは、水を吸い上げて元気になった状態の新鮮できれいな花を販売している。



バラのトゲを取っている所



本数を数えて新聞紙で巻いている



お花屋さんで並べられた花

●フラワーアレンジメント体験

- ・お花屋さんの仕事についての説明
「いらっしゃいませ」の挨拶から仕事が始まる。
- ・花の扱いについて
使用する花の説明、花の名前、特徴を聞く。
- ・お客さんの注文のアレンジメント作品を作る。
- ・ハサミの使い方、茎の切り方の説明を聞き
茎を切ってみる。手を切らないように注意する。
- ・花の色や形、硬い茎、柔らかい茎、細いもの
太いもの、使用する器の大きさなどのバラン
スを考えながら、全体のイメージを考えていく。



いらっしゃいませの練習から



花をよく見て配置を考えて挿していく



作品を作るときは真剣



四角いボックスにアレンジした作品



丸いボックスにアレンジした作品

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・説明用の写真をパネルにして、紙芝居形式でわかりやすく興味を引くようにしている。
- ・フラワーアレンジメントを体験してもらうことで、花の特徴などを知り、色々なことに気づいたり、感じてもらう。
- ・参加者の個性を活かして、創造性を養うように、デザインの強請はしない。
- ・楽しんで取り組めるように、良いところを褒めるなどの声掛けをする。

■ 経費

- ・1人当たり（花材・資材費）500円

■ これまでの成果

- ・今回で、「お花屋さん体験」は3回目ですが、年々希望者が増えている。
- ・前回参加した子が、今年度も2年続けての参加があり、花に興味を持ってもらえている。
- ・お花屋さん体験がきっかけとなり、学校の授業でも花育を取り入れてもらえることにつながった。
- ・保護者からの評判がよく大変喜んでもらった。

■ 参加者からの感想

（児童）

- ・普段売られている花がどのようにしてお花屋さんのお店に並ぶかがわかった。
- ・市場にも行ってみたい。
- ・花屋さんにはたくさんの仕事があることがわかった。
- ・アレンジメントが思うようにできてよかった。
- ・初めは難しかったけど説明を聞いてできた。たのしかった。
- ・花を買いに行こうと思う。

（教師）

- ・次回は子供と一緒にやってみたい。
- ・学校の事業でもやりたい。
- ・男の子が夢中になっていた。
- ・子供たちが生き生きしてやっていたのが印象的でした。

■ 参加者からの感想 (抜粋)

今日はBOXアレンジをつくらせてみて、3,4種類の色や種類があったので思っようにできたけども、とたくさんの色や種類が、あら、むっかしかったと思います。いつも花屋さんで買っている人の手で一つ一つつく。たんたんとと思ひ、何~~も~~もつくるのは大変かもしれないけど、花屋さんにならなれたら、と思ひました(おろろ)

今回始めてだったのでとても楽しかったです。花屋に花がとどくまでのこと、店にならなれた前のごことが、分かるのでよかったです。花をさすときに色あいや種類などのことを考えてつくるのがすごくむっかしかったです。自分なりに楽しくつくれたのでとてもよかったです。花のごことがくわしく知れてよかったです。

いつもできないことができてとてもいい経験になりました。お花が店頭^に並ぶまでのことも少し分かったので、お花屋さんに行ったらいつもと違う見方ができるかなと思ひました。

お花を、ボックスにつめる時、最初は、どうしよう、と迷っていたけど、だんだん、構成が、ついてきて、最後には、自分なりの花のかざりができたので、良かったです。お花屋にならなれたのが、小さいごの夢で、お花屋さんの体験が、ちょうどできたので、うれしかったです。お花を、お客さんにお渡して、いくのは、とても大切なことなんだな、と思ひました。とても楽しかったし、おもひが、良かったです。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・「花育」は、業界外ではまだ認知度がなく浸透していないので、今後は積極的に学校に働きかけをして活動していきたい。
- ・花を作っている生産者を訪ね、花が育っている様子を見たり、育てる苦勞などを聞いたり現場での様子を知ることも大切だと感じている。
- ・花を触ったことのない子もいるので、このようなイベントをたくさん行っていきたい。
- ・「花育」の実施には、教育委員会との連携が必要であると思う。
- ・愛媛県は、2017年に国民体育大会（国体）の開催県でもあるので、来場者をおもてなしする花の栽培や花の装飾などで大会を盛り上げていきたい。